

住民・生物多様性便益の貢献度評価手法
—CCBSのマニュアル及び事例を基に—



藤原 江美子

発表内容

- 1. これまでの発表内容
- 2. CCBS 便益評価の分析指標・方法
- 3. 事例11件の分析
- 4. まとめ

2

1. これまでの発表内容

- ◆第1回委員会・・・環境・社会面便益評価のイニシアチブ
マルチベネフィットの獲得を目的とするCCBS認証基準をピックアップ
- ◆第2回委員会・・・CCBS事例紹介
CCBSプロジェクト評価手法・指標の傾向を把握
- ◆（本委員会）第3回委員会・・・CCBS事例分析
CCBSマニュアルの分析視点から事例の評価手法・指標を検討

3

2. CCBS便益評価の分析指標・方法

SBIAマニュアルにもとづく便益評価

- 1. CCBSは ポジティブインパクト を見る
- 2. 便益の評価は 評価基準 にもとづく
- 3. 便益 を特定する
- 4. 便益の評価指標 を特定する
- 5. 便益の評価方法（モニタリング方法） を特定する

この流れで5番目を重点的に説明します



SBIAマニュアル
(CCBSを達成するための
マニュアル) より
Part1.~Part3.

4

2-1. CCBSは ポジティブインパクト を見る

Verraの認証プログラム

VCS

カーボンクレジット認証
No Net Harm（セーフガード）
・ FPIC
・ 住民の社会経済リスク



CCBS

カーボン・社会・環境の便益認証
Net Positive Impact（便益）
・ ポジティブな変化のプロセス

ネガティブな影響を与えないこと

+ ポジティブな影響があること

Verraはダブル認証を推奨

5

2-2. 便益の評価は 評価基準 にもとづく

- ◆全体で20基準95指標
- ◆Gold Level＝以下の付加的な便益を含めた全基準を満たしうる時

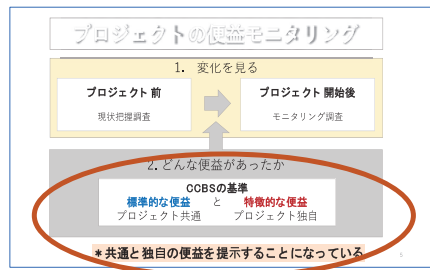
レベル	付加的な便益
Climate Gold	気候変動に適応する便益
Community Gold	プロジェクトを主導する小農・コミュニティや貧困世帯への便益
Biodiversity Gold	世界的に生物多様性の優先度が高い地域（Key Biodiversity Area）や絶滅危惧種の保全に対する便益

6

2-3. 便益を特定する

- ◆事業者は標準的な便益と特徴的な便益を提示する

↑
付加的便益はここに



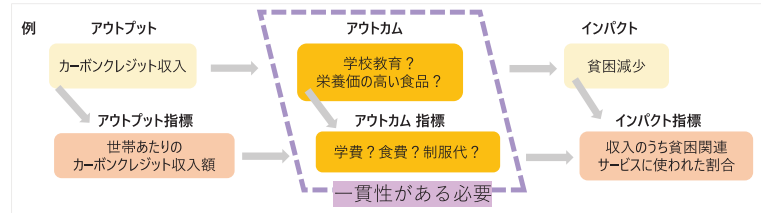
(第2回可視化委員会報告資料)

7

2-4. 便益の評価指標・方法を特定する

SBIAでの便益評価手法の考え方（生物多様性・住民共通）

- ◆変化学論を推奨（低コストで妥当な信頼性を達成しうる）
⇒望ましい変化のシナリオを想定し、そのレベルに応じた指標を特定する



(SBIA-Part 1 p.43 をもとに作成)

8

2-4. 便益の評価指標・方法を特定する

便益評価指標の出し方

- ◆指標は定量的・定性的どちらも活用することを提案している

- ◆「アウトカム」で定性的指標を用いやすい

アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
◆創出された雇用の数 ◆トレーニングを受けた人の数 ◆植林された木の本数 ◆環境教育ワークショップの参加者数	◆新しい生計手段を導入した世帯数 ◆炭素の支払による世帯収入の増加率または絶対値 ◆女性が薪や水を集めるのに費やす時間の減少 ◆炭素の受益者が公正な支払いを受けていることに同意している割合（これは、プロジェクトが実行可能で、効果的な利益分配システムがあることを意味する） ◆プロジェクト関係者委員会に占める女性の割合 ◆効果的な灌漑システムを村管理委員会が管理している割合 ◆生態系および経済的ゾーニングの完了 ◆保護地域の改訂されたモニタリングシステムの確立	◆乳幼児死亡率の減少率 ◆1日2ドル未満で生活する世帯の減少率 ◆森林保護対策に否定的な態度が肯定的に変化した割合 ◆意思決定への女性の参加の大幅な増加 ◆家庭内暴力の減少 ◆絶滅危惧種の個体数増加率 ◆希少な生態系の保全面積

(SBIA-Part 1 p.43 をもとに作成)

9

2-5. 便益の評価方法（モニタリング方法）を特定する

費用対効果の高いモニタリング方法は？

低コスト、信頼性

⇒「誰が行なうか」によって左右される

- ⇒事業者（プロジェクトチーム）が主体となって専門家やコミュニティとうまく協働して実施できる形がよい

(SBIA-Part 1 p.11-12, および10章)

1. 専門性（外部専門家＋技術・機器）
2. 実施者（外部専門家、コミュニティ）

順に見ていきます

10

2-5. 便益の評価方法（モニタリング方法）を特定する

を特定する

1. 専門性（外部専門家＋技術・機器）

以下の点での利点と不利点に注視するとよい

- ① データの質
- ② コスト
- ③ 調査期間
- ④ 新たな脅威の特定
- ⑤ コミュニティのデータ所有意識
- ⑥ 非専門家へのトレーニング

↑外部専門家の関与が少ないとき

2. 実施者（外部専門家、コミュニティ）

⇒コミュニティ関与の軸で見直すと・・・

表1. 生物多様性便益モニタリングでの外部専門家と技術・機器の複雑さ

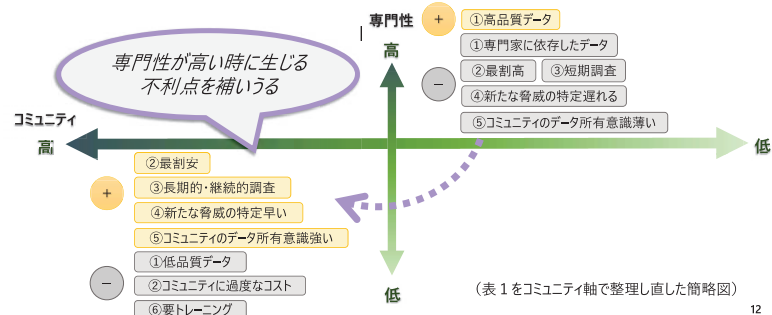
	モニタリング技術や機器の複雑さ			
	高		低	
専門性	利点	不利点	利点	不利点
	例：動物の目撃、世帯ごとの調査	例：カメラトラップ、衛星調査	例：カメラトラップ、衛星調査	例：動物の目撃、世帯ごとの調査
①データの質	高品質なデータ	専門家に依存したデータ	高品質なデータ	専門家に依存したデータ
②コスト	高品質なデータ	専門家に依存したデータ	高品質なデータ	専門家に依存したデータ
③調査期間	高品質なデータ	専門家に依存したデータ	高品質なデータ	専門家に依存したデータ
④新たな脅威の特定	高品質なデータ	専門家に依存したデータ	高品質なデータ	専門家に依存したデータ
⑤コミュニティのデータ所有意識	高品質なデータ	専門家に依存したデータ	高品質なデータ	専門家に依存したデータ
⑥非専門家へのトレーニング	高品質なデータ	専門家に依存したデータ	高品質なデータ	専門家に依存したデータ

(SBIA-Part 3 p.37 Table 8 をもとに作成)

11

2-5. 便益の評価方法（モニタリング方法）を特定する

専門性（外部専門家の実施量と技術・機器）とコミュニティ関与との関係



(表1をコミュニティ軸で整理し直した簡略図)

12